

さが桜マラソン 2019 ケアサポート

平成 31 年 3 月 24 日 (日) 北海道から沖縄、外国から、1 万人の市民ランナーが出場した。咲き始めた桜ソメイヨシノが出迎えた、第 30 回「さが桜マラソン」に今年も当会「接骨・整骨ボランティア」から合計 27 名が、23.7 km 地点の吉野ヶ里公園内、36.9 km 地点のさが水ものがたり館前の 2 カ所のコンディショニングケアブースに於いて、ストレッチ及びテーピング等ゴールを目指すランナーにケアサポートのコンディショニングを行った。

ゲストランナーとして第 1 回から出場で 30 回目の五輪メダリスト・君原健二さん、パラリンピック金メダリスト・柳川春己さん、五輪に 2 回出場の土佐玲子さんが市民ランナーと交流した。

当会は、ハーフマラソン時の第 3 回頃から少人数でボランティアを行っており、今年もフルマラソン 7 回目。フルマラソンになってからは、2 カ所のケアブース利用の選手が多く、主催者 (佐賀新聞社) や関係団体の方々から毎年のケアサポートを喜ばれている。

広報員 小嶋利博

15 スポーツ | 2019年(平成31年)3月25日(月曜日)

さが桜マラソン2019

県柔道整復師会 完走へ体のケア担う



○：折り返し地点となる吉野ヶ里歴史公園や終盤の「さが水ものがたり館」では、県柔道整復師会 (富永敬二会長) のメンバー 30 人がランナーの体のケアを担い、完走をサポートした。

歴史公園ではストレッチやテーピングを実施し、スプレー式の鎮痛剤も提供した。綾部文彦理事は「できるだけ疲労をとってあげたい」と話し、ランナーたちはそれぞれ「助かった」「ありがとう」など感謝しながら、コースに復帰していた。

(中村健人)

ランナーにスプレー式の鎮痛剤を吹きかける県柔道整復師会のメンバーたち | 吉野ヶ里歴史公園

